
相棒【猫の手も借りたい】

みい×2

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

相棒【猫の手も借りたい】

【Nコード】

N2233G

【作者名】

みい×2

【あらすじ】

相棒のファンフィクションといっても、コメディ風味の裏相棒ファンフィクションのつもり。第二弾。珍しく暇な伊丹刑事が鑑識を訪れ、ある物を発見！そして・・・意外な結末？

(前書き)

相棒ファンフィクションです。面白可笑しく楽しんでいただければ幸いです、第二弾。

だれもいない鑑識課

「なんだよ・・・誰もいないのか」

ぶつぶつ言いながら、ふらっと警視庁捜査一課の伊丹刑事がやってきた。

いつも忙しい捜査一課だが、今日は珍しく暇だ。

溜まっている書類でもやつつけるかと、資料を借りに来たついでに米沢にでも話しかけてやるかと思っていたのに。

ふと、鑑識の米沢の机を見ると、面白い物が置いてあった。

猫の手を真似た玩具。

ふわふわの毛並みに手先にはリアルな肉球がついている。

思わず、手に取り、その肉球を触る。

ぷに

感触が気持ちいい。

「なんだよ、米沢のヤロー・・・くだらねえもんで遊んでんだな！」
フンと鼻で笑いつつも、手はプニプニと肉球で遊ぶ。

腕の部分がレバーになってて、引くとクイッと手先が曲がった。

猫が手招きするように・・・

くいつくいつ・・・と、なんだか可愛い。

「なんだよ、これ・・・

癒し系か？

今流行りの癒し系なのかあ？」

強面の伊丹刑事も、なんだか楽しくなってきたようだ。

ふと、何か思いついたように周囲をキョロキョロし、誰も居ないことを確認すると、コホンと咳払いした。

そして・・・

猫の手をクイツと曲げ「にゃ〜ん」とダミ声で猫の声真似をした。

「や！・・・これは伊丹刑事、いらしてたんですか？」

休憩に行っていたのか、缶コーヒー片手に米沢が戻ってきた。

「う、うおお！・・・よ、米沢！！」

慌てふためいた伊丹は、手にした猫の手の玩具をさっと隠した。めざとい米沢が、それを見逃すはずがなかった。

「伊丹刑事、それは国際的テロ組織『赤いカナリヤ』の一味から押収した物でして・・・

乱暴に扱われては困りますな！」

そして、さあ返してとばかりに手を出してきた。

伊丹はおずおずと後ろ手に隠した猫の手の玩具を差し出す。

「けっ・・・ほんとかよ！？」

こんなの何に使うんだ？」

「まだわかりません・・・」

しかし、あの『赤いカナリヤ』のことです。

爆発物の類かもしれません・・・」

真剣な眼差しで猫の手を見つめる米沢に、「まさか」と伊丹が笑った。

「・・・たとえば、このレバーを引くと爆発するとか・・・」

そう言いながら、米沢はレバーを引く真似を試みせた。

「・・・爆発う！？・・・起こんなかったぞ？」

ムキになって言う伊丹を軽蔑したような目で見ると、米沢は言った。
「・・・伊丹刑事、これで遊びましたね？」

「何！・・・遊んでねえよ！！」

自分のしていたことが恥ずかしくなり、顔を赤くして怒る伊丹。

「おや？」

猫の手を観察していて、何かを発見したように米沢が言った。

「なんだ・・・？何かあるのか？」

思わず伊丹も覗き込む。

「何やら・・・レバーの横に小さなボタンが・・・」

「押すなよ！！！今度こそ爆発かもしれねえぞ！！！」

米沢と伊丹が頭を並べて猫の手の玩具に夢中になっていた時、鑑識に亀山刑事がやって来た。

二人の様子に何か面白そうだな～と思った亀山が、ポンツと米沢の肩を叩いた。

「何？・・・何か面白いことあんの？」

笑顔で聞いた亀山に壮絶な顔で声も出ない米沢と伊丹だった。

そう・・・亀山に肩を叩かれた拍子に、米沢はレバー横の小さなボタンを押してしまったのだった。

この世の終わりかと思うほど青ざめた二人だったが・・・
猫の手の玩具に目に見える変化はなかった。

確かに、目に見える変化はなかったが、かわりに妙な音声が無駄に高音質で流れた。

「にゃ～～～ん」

伊丹のだみ声が響いた。

「なんだ、これ？」

亀山は不思議そうな顔をし、米沢は哀れなものを見るように伊丹刑事を見た。

そして、声の主……伊丹は恥ずかしさで爆発しそうなほど真っ赤になっていた。

結局、猫の手の玩具は録音装置だったようだ。

一体、どういう目的で『赤いカナリヤ』がこんなものを作ったのかは謎だが、翌日から警視庁に噂が流れた。

——強面の伊丹刑事は猫好きにゃ〜ん

しばらく、伊丹刑事が不機嫌そのものだったことはいうまでもない。

(後書き)

くすりと笑っていただければ幸せです。いたみんな大好きです^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2233g/>

相棒【猫の手も借りたい】

2010年10月28日06時38分発行